

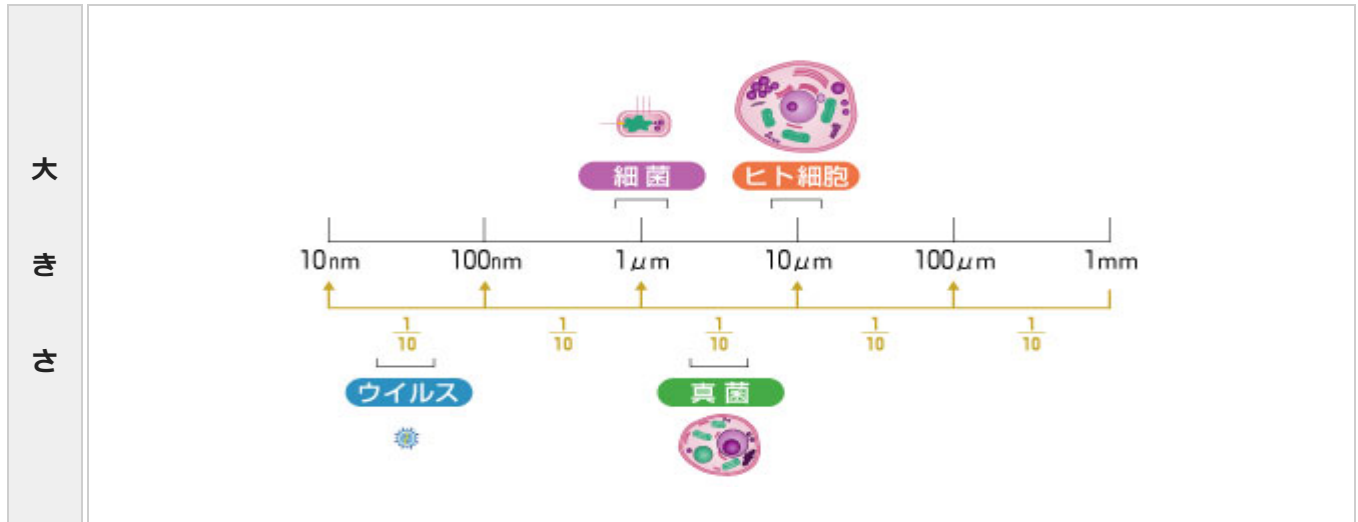


## 感染症って・・・？

感染症とは、細菌やウイルスなどの病原体が生物に寄生して引き起こす病気です。

咳やくしゃみ、鼻水などの症状が出る風邪や、熱が出るインフルエンザ、病原体で汚染された物を食べることで吐き気や下痢などの症状が出る食中毒も感染症の一種です。

感染症を引き起こす病原体には、主にウイルス、細菌、真菌（かび）などがあり、種類によって大きさや増え方、治療方法も違います。



## 感染症の経過・・・

病原体に感染したからといって、すぐに症状が出るとは限りません。

病原体の数がまだ少なく、症状がほとんど出ない時期を「**潜伏期 (せんぷくき)**」といいます。

病原体が体内で増えると、いよいよ症状があらわれ始めます。

全身性の感染症の場合は、しっかりとした症状が出るまで時間がかかるため、この時期を「**前駆期 (ぜんくき)**」と呼ぶこともあります。

一般的にウイルス感染症は全身性感染症になりやすく、前駆期がみられます。

たとえば、インフルエンザで、発熱する前日に体がだるくなったり、筋肉痛があらわれたりするの  
は前駆期の症状の一種です。

やがて、病原体と戦うために体内でさまざまな生理活性物質が作られますが、これらの働きをよくするために体温を上げる反応が「**発熱**」です。

熱や発疹など、誰にでもわかる症状がしっかりある時期が「**罹病期 (りびょうき)**」です。

その後、目立った症状がなくなっても体はすぐに本調子には戻りません。この時期を「**回復期 (かいふくき)**」  
といいます。

咳や鼻水、発熱、嘔吐・下痢などの感冒様症状が出たら、手帳に熱の記録（解熱剤の使用時期やトイレの回数  
なども書き込むとなお良い）をつけておき、受診時に医師に見てもらおうと診断に役立ちます。

病原微生物が体内に入り込むルートは、主に空気を介して広がる**空気感染**（飛沫核感染）、飛沫を介して広がる**飛沫感染**、感染源に触れることで広がる**接触感染**（血液・体液暴露を含む）の3つです。  
感染経路を意識した感染防止対策を行いましょう。